

10月下旬～11月中旬に収穫されるナシ新品種「王秋」の特性

[要約] ナシ「王秋」は、10月下旬～11月中旬に収穫される晩生種で、「新高」や「新雪」よりも果肉が軟らかくて糖度が高い。花芽の着生は良好で栽培しやすいが、収穫前に落果しやすいので必ず落果防止剤を散布する。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

指導

1. 背景・ねらい

茨城県のナシ品種構成は、「幸水」と「豊水」で約90%を占め両品種への偏在化が著しい。このことは、特定作業への集中化を生み、規模拡大の阻害要因となっている。一方、最近の消費動向を見ると高品質化や少量多品目消費の傾向が強くなっている。従って、これら両品種への偏在化を是正し、労力分散と多様な消費ニーズへの対応を図るため熟期の異なる品種の導入が必要である。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 新品種「王秋」は農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所で1983年に中生の系統C₂「慈梨(ツーリー)×二十世紀」に大果の晩生品種「新雪」を交雑して育成した。チュウゴクナシ「慈梨」(ツーリー)を親に持つため果形に特徴がある(図1)。
- 2) 樹勢が強く、樹冠の拡大は容易である。花芽の着生が良く、短果枝の維持は容易である。
- 3) 開花期は「豊水」と「幸水」の間であり、花粉の量は多い。「豊水」とは和合性を示すが、「幸水」と不和合性を示す。
- 4) 収穫期は園芸研究所(岩間町)で10月下旬～11月中旬であり、「新雪」とほぼ同時期の収穫期である(図2、表1～2)。
- 5) 収量は1999～2003年の平均値で134kgあり、若木で比較すると「新高」と同程度である(表2)。
- 6) 果重は平均約700gで「新高」と同程度である。硬度は平均3.81bsで「新高」や「新雪」よりも軟らかい。糖度は平均13.1%で「新高」や「新雪」よりも高い(表2)。
- 7) 年次によりみつ症や心腐れが発生する。園芸研究所では2003年に初めて150果調査して1果のみつ症果を確認した(表1)。
- 8) 収穫前落果が発生しやすいが、落果防止剤(ジクロルブロック剤2000～3000倍)を散布処理すると落果率は激減する(表3)。
- 9) 日持ち性は良く、室温で30日以上ある。
- 10) 黒斑病には抵抗性を示し、黒星病に対しては「幸水」と「豊水」を対象とした通常の防除で問題ない。特に問題となる虫害もみられない。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 収穫前落果が発生しやすいので落果防止剤(ジクロルブロック剤2000～3000倍)を必ず収穫開始予定の14～7日前に散布処理する。
- 2) 「幸水」の花粉は「王秋」の人工受粉に利用できない。
- 3) 成熟期前後の果皮色の変化が小さいので糖度や澱粉反応などから収穫適期を判定する。
- 4) 年次によって生理的な葉焼けが発生することがあるが問題ない。
- 5) 観光直売型の産地では、時期を拡大するのに「王秋」の導入は有効と考えられる。

4. 具体的データ



図1 ナシ新品種 「王秋」(おうしゅう)
「慈梨(ツーリー)×二十世紀」×「新雪」
「慈梨」を親に持つため果形に特徴があります。

品種	9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
豊水	■	■							
あきづき		■	■						
新高			■	■					
王秋						■	■		
新雪								■	

図2 ナシ中晩生品種の収穫期

表1 「王秋」の品種特性(1999～2003年)

年	樹齢 年生	開花期(月・日)		収穫期(月・日)		収量 kg/樹	果重 g	硬度 lbs	糖度 Brix%	みつ症 発生率(%)
		始	終	始	終					
1999	8	4.20	4.28	10.25	11.8	129.4	702	3.7	13.0	0
2000	9	4.23	5.2	10.27	11.14	163.7	675	3.7	13.0	0
2001	10	4.13	4.20	10.22	11.8	101.7	603	3.8	13.2	0
2002	11	4.3	4.15	10.22	11.14	156.2	734	3.9	13.2	0
2003	12	4.18	4.26	10.23	11.14	116.7	752	3.9	12.9	0.7
平均		4.15	4.24	10.24	11.12	133.5	693	3.8	13.1	0.1

表2 ナシ中晩生品種の特性(1999～2003年)

品種名	樹齢 年生	満開日 月・日	収穫期(月・日)		収量 kg/樹	果重 g	硬度 lbs	糖度 Brix%
			始	終				
豊水	15	4.19	9.5	9.21	130.7	518	4.1	12.4
あきづき	12	4.20	9.13	10.5	104.3	456	3.7	12.3
新高	15	4.15	9.23	10.17	125.4	663	4.8	12.5
王秋	12	4.20	10.24	11.12	133.5	693	3.8	13.1
新雪	14	4.19	11.4	11.16	182.1	894	5.1	12.3

注) 樹齢は2003年

表3 落果防止剤の散布処理が落果率に及ぼす影響(2002年)

処理区	落果率(%)
ジクロロブロック 3000倍	1.6
対照	35.0
t検定	***

注) t検定は***:0.1%で有意。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測・平成4～15年度・果樹研究室